

331

特240  
892

空軍獨立ノ提唱

陸軍中將 林 弥三吉



0057975-000

特240-892

空軍獨立ノ提唱

林弥三吉・著

林弥三吉

昭和11

AJH

331

特240

892

空軍獨立ノ提唱

陸軍中將 林 弥三吉

特 240  
892

極秘

空軍獨立ヲ提唱ス

陸軍中將 林 弥三

予ハ多年國土防衛ノ研究ヲナスベキ任務ヲ有シ、常ニ各國

特ニ近隣諸國ノ航空界ヲ注視シアリシ處、近來遂ニ現狀ヲ默

視スルコト能ハザルノ境地ニ追ヒ込マレ、敢テ此ノ提唱ヲナ

ス所以ナリ。



二  
數年來我國人ハ防空ノ肝要ナルコトヲ痛感シ、毎年各地方ニ於テ防空演習ヲ實施スルニ至リシハ、邦家ノ爲メ欣快ニ堪ヘザル處ナルモ、其實施ノ現況ハ未ダ氣休メノ範圍ヲ出デズ、千遍一律、消極的防空其物ニシテ、今日ノ對手ノ航空界ヲ知ル吾人ニハ轉々寒心ニ堪ヘザルモノアリ。

今ヤ飛行機ノ速力、航續力、爆撃力、燒夷力其他ノ進歩ハ眞ニ驚クベキモノアリ、日進月歩、各國優ヲ競ヒ、實ニ大巾ノ躍進ヲ續ケツ、アリ。カノ地上ヨリノ射撃ノ如キハ其効果

殆ンド零ト云フベク、只特種物狙撃ノ爲メニ降下シ來ル處ノ飛行機ニ對シテノミ僅カニ効力アルノミ。今日若シ空中ヨリ地上ノ防空動作ヲ瞰視スルトキハ、恰モ鷺鳥ノ兎群ヲ見ルニ等シカラシ。

實ニ今日ノ空軍ハ瞬時ニシテ敵國ノ心臟部ヲ燒土ト化シ去リ、然カモ悠々トシテ凱歌ヲ奏シテ引キ上グルコト蓋シ易々タルモノアラシ。近時某將校ガ日「ソ」間ノ戰ハ五時間ニシテ勝敗決スベシト斷言シタルハ實ニ謂レナキニアラズ。

近頃或人、某米國大資本家ニ向ツテ、米國ハ労働者ノ力强ク賃銀モ高シ、就テハ日本ニ投資スルノ意思ナキヤト問ヒシ處、彼レ卽座ニ曰ク、日本國土ハ「ソ」聯邦ノ空爆ニ對シテ危険極リナシ、此ノ如キ處ニ安心シテ投資シ得ルカト。之レ實ニ米國資本家ノ眞面目ナル返答ナリシナリ。知ラヌハ日本人ノミニアラズヤ。

此ニ於テカ吾人ハ速カニ陸海ノ空中勢力ヲ整理シ、之ヲ充實シ、以テ專ラ空中戰ニ從事スル直轄空軍ノ設立ヲ望ンデ止

マズ、以テ空中戰専門ノ空軍ヲ作ラザルベカラズ。

元來僅カニ七八里ヲ隔テ、スレ合フ飛行機ト雖モ互ニ見エザルヲ普通トスルヲ以テ、我國ノ如キ明ケ放シノ國土ニ於テハ、僅少ノ飛行機ヲ以テ、然カモ統制不充分ナルモノヲ以テ、如何ニシテ敵機ヲ洩レナク取り押ユルコトヲ得ンヤ。若カズ、大空軍ヲ結成シテ一舉敵ノ飛行根據地ヲ襲撃スルヲ以テ最モ策ノ得タルモノトナス。此ノ如ク、國土防衛ノ見地ノミヨリ論ズルモ、積極的空中攻勢ヲ以テ主ナル手段トナス。

而シテ僅カニ二三機ト雖モ、密カニ極メテ高く飛來シ、廣大ナル目標タル大市街ヲ、高射砲ノ到達限界外ヨリ、強烈ナル燒夷彈ヲ以テ爆撃セバ、忽チニシテ之レヲ焦土トナスコト實ニ易々タルモノアリ。十年前迄八十臺ノ飛行機東京ノ上空ニ漏レ來ルアレバ、大震災ノ當時ト同數ノ火元ヲ作り得ト云ハレタルモ、今ヤ僅カニ二三臺ニシテ同數ノ火元ヲ作り得ベシ。此ニ於テカ益々根據地襲撃ノ必要ヲ絶叫セザルヲ得ズ。話頭ヲ轉ジテ、今日ノ世界ノ航空界ヲ大觀スレバ、何レノ

強國モ、殆ンド取り除ケナク、運輸交通ニ使用シアル飛行機ヲモ之レヲ空軍省ノ統轄ニ屬シアルハ最モ注目スベキコトニシテ、彼ノ列強ガ支那ニ交通用ヲ表看板トシテ輸入シアル飛行機モ皆之レ軍用ヲ主眼トスルモノナルコトヲ忘ルベカラズ。

特ニ飛行機ノ速力ハ遠カラズ時速四五百軒ヲ普通トスルニ至ルベク、航續距離モ八九千軒ヲ普通トシ、航續時間八十數時間ニ上リ上昇能力八十軒ニ近ク搭載量モ十噸位トナランカ。此ノ如キ狀況ナルヲ以テ「ウラジオ」・東京間ヲ四五時間ニシ

テ一舉ニ往復スルコトハ蓋シ既ニ其域ニ達シアランカ又爆彈ノ力及爆撃照準機モ大ニ發達シ、カノ優力ナル航空母艦ノ近邊七米ニ落下シタル爆彈ト雖モ、完全ニ其艦ヲ無能力ニ陥ラシメ得ルニ至レリ。

茲ニ於テカ、米國ノ如キハ、ミツドウエー、ウエーク、等ノ島嶼迄、飛行根據地ヲ作ルニ至リ、以テ容易ニ破壊セラレザル陸上飛行場ヨリ、其延長シタル航續半徑ヲ利用シテ悠悠々日本ノ主要地ヲ脅威センコトヲカムルニ似タリ。況ンヤ沿海

洲及支那各地ニ根據地ヲ有スル飛行機ニ於テハ其脅威力ノ大ナルコト知ルベキナリ。

吾人ハ地上ノ戰及水上ノ戰ニ於テハ自信ヲ有ス。特ニ古來吾人ノ血ノ中ニハ寡ヲ以テ衆ニ勝ツノ術ニ長ジタル處アリ、否ナ寧ロ之レヲ以テ誇トナスモノナリ。見ズヤ古來有名ナル戰ハ一ツトシテ寡ヲ以テ衆ヲ制シタルモノナラザルナク、又形而下ノ不備ヲ憂ヘズ、之レヲ形而上ノモノヲ以テ補フヲ常トス。遂ニ旅順攻略ノ如キハ彼ノ有名ナル肉彈戰迄モ實施シ

タルニアラズヤ。

然レドモ、從來ノ戦ノ鬪争力ガ、機械力三分、精神力七分ナリシト假定セバ、後來ノ戦ハ機械ノ精銳トナリシガ爲メ、其ノ力ヲ五六分ニ高メ、反對ニ精神力ヲ三四分トセザルベカラザルヲ思ヘバ、今迄輕侮シアリタル劣弱軍モ、精銳ナル機械力ニヨリテ大ニ其鬪争力ヲ強メラレタルヲ察セザルベカラズ。特ニ空軍ニ於テハ此感ヲ深クス。則チ、餘リ多ク中間指揮官ノ働キヲ要セズシテ、無碍ノ空中ヲ、主トシテ指揮官ノ

率先ト機械力ト敢爲ノ勇氣トニヨリテ戦フモノニシテ、其行動タルヤ寧口單一ナリト云フベキヲ以テナリ。

此ノ如ク觀ジ來レバ、今ヤ國際間ノ戦鬪ノ方式ハ大ニ變化シタリト云フベク、彼ノ大艦ヲ浮ベテ、晝夜ヲ論ゼズ、航空機ノ好目標ヲ呈スルヨリハ、寧口水中ヲ潜リテ戦フヲ可トスルガ如ク、陸戦ニ於テモ晝間飛行機ノ明視下ニ戦フヨリハ夜戦ヲ行フヲ最モ必要トシ、此ノ如ク水陸ノ戦ニ大變革ヲ來スノミナラズ、空軍相互ノ大會戦モ實施セララルベク、特ニ空軍



單獨ノ都市及工場等ノ奇襲ハ到ル處ニ演ゼラルベク、陸戰海戰ト同列ニ空中戰ナル獨特ノ第三戰場ヲ成形スルニ至レリ。

此ノ時ニ當リ、陸戰・海戰ニ屬スル處ノ空軍ノミヲ以テ、然カモ如何ニ之レガ緊密ニ行動シ得タリトテ果シテ晏如タリ得ルヤ、識者ヲ待タズシテ明カナリ。抑モ空軍ハ陸戰及海戰ヲ援助スベキハ勿論ナルモ其レヨリモ更ニ大所ニ著眼シテ國土及住民ヲ掩護スルヲ以テ主眼トセザルベカラズ。

今ヤ航空機ノミノ獨立シタル作戰ガ、動員モ集中モ展開モ

未ダ了ラザル前ニ於テ演ゼラルベク、爲メニ對手國ノ國論ヲ混亂セシメ、宣戰モ動員モ整正ニ實施セラレズ、其國內ヲ大混亂ニ導クコト決シテ不可能ニアラズ。否ナ之レニ對スル準備ナキトキハ、慥カニ、一舉ニシテ戰爭ノ結末ヲ告グルニ至ルベシト信ズ。而シテ此ノ如キ大空襲ハ單ニ戰爭ノ初期ノミナラズ、其ノ後不斷ニ行ハレ、特ニ此頃ハ落下傘ヲ利用シテ大軍ノ空中移動及別働隊式ノ行動ヲ許スニ至リ、カノ「ソ」聯ノ如キハ、最近一時ニ一萬千五百人ヲ空中輸送シ、又砲モ戰

車モ之レヲ落下シ得ト豪語ス。而シテ從來ハ戰地ト内地トニ分レアリタルモノガ、今ハ一舉ニ國ノ隅々迄之レヲ戰地ト化シ、軍隊モ人民モ皆一舉ニ之レヲ戰場ノ裡ニ投ズルニ至レリ。

今ヤ列強ニシテ空軍ノ獨立シアラザル國ハ我日本ノミト云フテ可ナリ。佛國ノ如キ議論ニ耽ル國モ、昨年ニ至リ、從來個々獨立シアリシ航空界ヲ空軍省ニ統轄シテ曰ク、今ヤ之レハ議論ノ時期ニアラズ、實ニ國民ノ死活、國家存亡ノ分ル、處ナリト。又民間航空ト云フ語ハ、昔ノ熟語ト化シ、今ヤ平時

ノ運輸交通ノ飛行機モ皆空軍省ノ一元ニ歸シ居ルヲ常トス。然ルニ今日尙ホ航空省(空軍省ノ意味ナレバ別)ヲ作ルベシトカ、航空院ヲ作ルベシトカ云フ議論ヲ耳ニシ、平時ノ運輸交通ニノミ專念スルガ如キハ已ニ陳腐ニ屬ス。

我國ハ最近大ニ軍備ヲ充實シ、赤字公債ヲ増發シ、増稅ヲ斷行セントス。而シテ其軍備充實ノ項目ヲ檢討スレバ、物質則チ機械・資材ノ充實ニ重キヲ置キ、未ダ空軍ヲ獨立シ、潑刺タル戰士ヲ作ルニ疎ナルニアラザルヤヲ疑ハザルヲ得ズ。

彼ノ米國ノ如キハ、操縦者ノ數一萬五千ヲ算シ、民間ノ飛行機スラ一萬機ト稱セラル。然モ尙ホ且ツ其操縦者ノ不足ヲ喧々呼號スルニ於テハ、我國ノ如キハ大ニ力メザルベカラザルコト必セリ。

之レガ爲メニハ、航空學校・軍隊ヲ増加スルハ勿論、民間ノ學校ヲモ指導シ、其發達ヲ獎勵セザルベカラズ。現ニ我國ノ如キハ民間學校卒業ノ航空士ニシテ失業シアルモノアリテ、之レヲ軍ニ收容スルノ途ヲ講ゼザルベカラザル實情ニアリト

信ズ。

又列強ハ大略其有スル處ノ飛行機ノ七八割ハ之レヲ直轄シ其二三割ヲ陸海戰ニ從屬セシメアルノ時ニ當リ、我國ノミハ陸海軍ニ分屬シタル航空機ノミヲ有シ、然カモ戰時ニ於テハ當然材料ノ奪ヒ合ヒヲ來スニ相異ナク、其ノ他燃料及規格等ニ於テ思ヒ知レザル損失ヲ來シアリ。因テ速カニ之レヲ統一スベキコト實ニ火ヲ睹ルヨリモ明カナルニアラズヤ。

又空中ノ戰士ハ陸海軍ノ將校(尉官)下士官ニシテ、列國ハ

殆ンド之レヲ三十歳以下ニ限定シアルノ時ニ當リ、我國航空兵ノ將校ノ如キハ、各兵科ノモノト同列ニ進級シ、同一ニ教育セラレ、四十歳ニ近クシテ尙ホ且ツ大尉ト云フガ如キ情況ニテハ、如何ニシテ潑刺タル空軍ヲ作ルヲ得ンヤ。故ニ單ニ潑刺タル飛行士ヲ得ルト云フ點ノミヨリ論ジテモ、空軍ヲ獨立シ、其士官下士官ヲ特別ニ教育シ、其他民間飛行士ヨリモ特進ノ將校下士官ヲ作ルコトノ必要ナルヲ信ズルモノナリ。

元來空軍ノ飛行士ハ將校下士官ナルモ、兵ハ皆特種ノ勤務

ニ服スルモノニシテ、熟練ヲ要スルコト切ナルヲ以テ、之レヲ長期在營トシ、其待遇、選兵等ニ於テモ亦特種ノ途ヲ開カザルベカラズ。

カク論ズルモノ、現時我國ニ於テハ飛行機ハ陸海軍ニ分屬シアル爲メ、習慣上、情實上、陸海軍ノ現職者ヨリ、或ハ之レガ獨立ヲ叫ビ得ザル點モアラン。依テ茲ニ此圏外ニアルモノヨリ此案ヲ提唱スル所以ナリ。願クハ虚心坦懷今日ノ世界ノ趨勢ヲ察シ、速カニ豫算ニ之レガ可能性ヲ附シテ空軍改

編ノ委員會ヲ舉ゲ先ヅ第一ニ空軍省ヲ作り、茲ニ空軍獨立ノ基礎工事ヲ斷行シ、之レニ陸海軍ノ航空部隊ヲ隸屬セシメ、而シテ其内ヨリ一部ヲ陸戰海戰ニ屬セシメ、他ノ大部分ハ之レヲ直轄空軍トシテ訓練シ、更ニ民間ノ航空ヲモ監督指導シ、以テ全般ノ技倆ノ進歩、技術ノ進歩、材料ノ統一、補給ノ統一等ヲ計ルコト最モ緊急事ナリト信ズ。此ノ如クシテ我國武人ヲシテ、陸戰海戰ノミナラズ、空中戰ニ於テモ亦世界ニ冠タルノ力量ヲ有スルニ至ラシメンコトヲ切望ス。(畢)

333  
593

昭和十一年十二月十三日 印刷  
昭和十一年十二月十七日 發行

(非賣品)

東京市淀橋區西大久保一丁目四百十四番地  
著作兼 發行者 林 弥 三 吉

東京市赤坂區青山南町二丁目五十四番地  
印刷者 上 原 好 雄

東京市神田區神保町三丁目十番地  
印刷所 共立社印刷所

